



鍾道察

沿革ノ概畧

明治三年三月東京横濱間線路測量ニ着手シ尋テ同年七月大阪神戸間ノ一線モ亦測量ヲ叙ム此事務元民部省ノ所轄タリシカ閏十月ニ至リ工部省建設アリテ直チニ之ニ属隸ス四年八月鐵道寮ヲ置カレ一等ニ位ス而テ東京横濱間ノ一線ノ造営ハ五年五月ニ至リテ横濱ヨリ品川迄ノ部分稍成ヲ以テ試ニ運輸ノ業ヲ開ク之レヲ我邦鐵道造築ノ権輿トス幾モナクシテ東京品川ノ間ニ建築竣工スルヲ以テ其六月此全條ヲ運轉シテ以テ行旅ノ便ニ供ス此線路タル東ハ東京新橋ニ起リ西横濱海灣ニ至リ凡テ十有七英里七十鎖余ニシテ其中間停車場ヲ置クモノ四所曰品川曰川崎曰鶴見曰神

奈川即チ是ナリ此年九月十二日

聖上臨幸線路開業式ノ典ヲ挙リ是ヨリ先京都大阪間  
及ヒ敦賀線モ亦測量ノ議アルヲ以テ此歲四月先ニ京  
都大阪線ノ實測ニ從事シ漸次敦賀線ニ及ボサントス  
六年一月東京横濱間複線建築ノ費額ヲ豫算ス其四月  
京都大阪間建築事業ニ着手ス九月東京横濱間貨物ノ  
運輸ヲ肇メ以テ行旅ヲ便利ス是ヨリ先東京ヨリ西中  
山道京都ニ至ルノ線路及東北ハ青森マテノ線路測量  
ニ從事シ築造ノ費途豫算ノ議ヲ興シ中山道ノ如キハ  
曩ニ既ニ調査了リ今亦青森線路測量ニ從事シ此年八  
月ヨリ七年一月ニ至リテ豫算全ク成ルヲ告ク十二月  
京都ヨリ中山道通り名古屋ニ至ルノ線路測量ノ議ヲ  
決ス二月東京横濱間復線費用ノ豫算成ル此月本寮ヲ

大坂ニ移ス五月大坂神戸間ノ線路建造竣工ス仍テ此  
月十二日假ニ運輸ノ業ヲ開キ以テ行旅ノ便ニ充ツ此  
線タルヤ西兵庫湊川東邊ヨリ起リ東三ノ宮住吉西ノ  
宮神寄ノ四停車場ヲ經大坂梅田ニ至リテ止ム里程凡  
二十英里世チエーントス今六月ヨリ九月ニ至リ再ヒ中  
山道線路ヲ概測シ又塩尻驛ヨリ新潟ニ至リ宇都宮ヲ  
經テ東京ニ至ルノ地理ヲ調整測定ス七月東京横濱間  
ノ線路乗客ノ期限切符ヲ發行ス十二月神戸大坂線貨  
物ノ運輸ヲ開ク八年三月京都大津間及ヒ塩津敦賀間  
ノ經費豫算ヲ立テ又大津塩津間ノ豫算其他各部今ノ  
精図等落成ス五月安治川枝線成ヲ告ク即月之ヲ開行  
シ以テ旅客貨物ヲ運搬ス此支線ハ大坂停車場ノ西邊  
ヨリ今岐シテ西南ニ行ク事凡一英里六十鎖ニシテ安

治川ノ北岸ニ止ル爰ニ停車場ヲ設置ス九年四月京都  
敦賀線及米原ヨリ中山道通加納ニ至リ夫ヨリ尾張宮  
マテノ線路明細測量書成ル又本寮創始ヨリ八年六月  
ニ暨ルノ經費ハ金五百五拾九萬四百拾壹圓拾三錢四  
厘九毛洋銀四百三拾三萬三千三百拾三弗六拾三セニ  
ト五分錢貳萬貳千三百三拾貫文トス此經費科目ノ詳  
細ハ本省中ニ掲載スル所ノ一覽表ニ記入スル力故爰  
ニ之ヲ贅セス是レ鐵道創立以來本週年ニ至ル沿革ノ  
概畧ナリ

### 本年度收入ノ概畧

本週年間鐵道寮ニ於テ收入スル所ノ金額ハ諸稅 其

他ノ數件ヲ合セテ金六拾四萬貳千貳百四圓三拾八  
錢五厘ナリ又其經費ノ金額ハ定額常費額外常費臨  
時費ノ三種ヲ合セテ總計金百拾六萬千八拾九圓三  
拾壹錢貳厘洋銀拾四萬五千七百拾九弗五拾九セニ  
トナリ昨年ニ於テ本週年ノ收入ヲ豫算セシハ金六  
拾九萬三千四拾五圓九拾五錢八厘ナリシカ其實収  
ハ金六拾四萬千六百四拾七圓貳拾四錢三厘ニシテ  
金五萬千八百四拾壹圓五拾七錢三厘ノ不足ヲ生セ  
リ又經費ノ豫算ハ金百七拾萬三千四百圓三拾貳錢十  
リシカ其實費ハ金百三拾萬六千八百八圓九拾錢貳  
厘ニシテ金三拾九萬三千四百九拾五圓四拾壹錢八  
厘ヲ減却セリ是レ其大約ニシテ其詳細ノ如キハ本  
省中ノ收入表及經費一覽表ニ記載スルヲ以テ爰ニ

贅セス

大坂神戸間汽車運輸景況

坂神間鐵道布設成ルヲ以テ七年四月試ニ運輸ノ業ヲ開キ尋テ五月八日乗客荷物ノ賃金ヲ改正シ全十一日ヨリ假開業ヲ行ヒ其八月尚ホ衆庶ノ便宜ヲ慮リ死尸及ヒ鳥獸類ノ輸送ヲ為ス八年三月ニ至リ旅客直數ノ増殖スルヲ以テ發車度數兩次ヲ増シ日々十往復ト十ス爾來運輸ノ業ヲ執行スト蚕氏布設日尚淺キカ故人民未タ之カ便捷ナルヲ了得セス爰ヲ以旅客ノ數東京橫濱間ニ比スレハ殆ント寥々ニ屬セリ加之鐵路進行ノ迅疾ニシテ線路ニ近ツク時

ハ忽チ危嶮ナルヲ事情ニ疎キカ故良ニスレハ被傷或ハ過誤ヲ來ス事亦尠シトセス今本週年間瀛車運轉上ニ係ルノ概況ヲ挙ンニ八年九月廿日朝六時大坂駐車場ニオイト客車荷車連合ノ際馭夫吉田秀章誤テ此列車ニ撞觸シ為メ顛跌シテ左足ヲ躰傷ス此ノ過失ヲ致セル運輸方英人ブロック氏ヲ罰シ増給ノ定期限一ヶ月ヲ延フ十月十九日上リ列車住吉スチーシヨン西手ナル小踏切道ヲ進行ノ際老嫗横道ヲ通セントスルカ故瀛嘯ヲ以テ之ヲ警止スト雖モ聲者ニシテ此警報ヲ覺ヘス直チニ機關車ニ衝突シテ斃死ス依テ昔ヲ縣官ニ傳ヘ所公セシム十一月一日ヨリ列車出發時間ヲ改正ス九年三月九日午前八時神戸駅瀛車庫内ヨリ失火下等車ヲ燒亡シ瀛罐車

及客車二三軸為メニ焦爛スト雖モ全体ヲ毀ルニ至  
 ラス同九時鎮消ス尋テ失火消亡隊ヲ置キ假規則ヲ  
 設ケ後來ヲ警シム四月十三日午後神戸發車西ノ宮  
 駅到着ノ際米人サムソシ酒犯ニ乘シ同車人ヲ毆傷  
 スルヲ以テ神戸駐在同國領事へ附シ懲罰セシム五  
 月廿三日貨物運輸等級表改正増補ス尋テ瀛車出發  
 度數一次ヲ増シ六月十六日ヨリ之ヲ施行セシム七  
 月一日ニ至リ神戸鐵道棧橋落成スルヲ以テ全廿七  
 日棧橋保全規則ヲ頒行ス是レ本週年間鐵道運輸ニ  
 係ル事故ノ概畧ニシテ此間乗客ノ多寡及収入賃金  
 ノ總額等下條ニ表面ヲ著シテ以テ閱覽ニ供ス然リ  
 而シテ前週年ノ如キハ鐵路及ヒ停車場トモ未タ完  
 備ニ至ラス反ニ運輸ノ業ヲ閑キシモノニテ今之ヲ

以テ比較ヲ取ルヲ得ス此故ニ本年度ヲ以テ月表ヲ  
 造リ乗客荷物ノ負數ト其賃金ヲ左ニ掲ク

乗客貨物賃金概表

年	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	合計
乗客ノ數	七、七、八三	七、八、七三	八、四、五九	八、九、八八	八、七、一六	七、四、七五	七、二、八六	八、四、七七	九、三、四九	一、〇、九、九三	一、〇、七、七九	一、〇、七、七九	一、〇、〇、〇〇
貨物量目	一、五、七、七九	一、五、八、七三	一、五、八、七三	一、五、八、七三	一、五、八、七三	一、五、八、七三	一、五、八、七三	一、五、八、七三	一、五、八、七三	一、五、八、七三	一、五、八、七三	一、五、八、七三	一、五、八、七三
乗客賃金	一、七、七、九〇	一、七、七、九〇	一、八、〇、〇〇	一、八、三、三三	一、七、七、一六	一、六、二、二八	一、五、二、八八	一、七、〇、七九	一、九、六、九八	二、〇、五、三〇	二、〇、五、三〇	二、〇、五、三〇	二、〇、五、三〇
貨物賃金	一、五、一、一〇	一、五、一、一〇	一、五、一、一〇	一、五、一、一〇	一、五、一、一〇	一、五、一、一〇	一、五、一、一〇	一、五、一、一〇	一、五、一、一〇	一、五、一、一〇	一、五、一、一〇	一、五、一、一〇	一、五、一、一〇
費用金	五、九、八、九八	五、九、八、九八	五、九、八、九八	五、九、八、九八	五、九、八、九八	五、九、八、九八	五、九、八、九八	五、九、八、九八	五、九、八、九八	五、九、八、九八	五、九、八、九八	五、九、八、九八	五、九、八、九八
差引	一、三、五、二一	一、三、五、二一	一、三、五、二一	一、三、五、二一	一、三、五、二一	一、三、五、二一	一、三、五、二一	一、三、五、二一	一、三、五、二一	一、三、五、二一	一、三、五、二一	一、三、五、二一	一、三、五、二一

測量記事

曩ニ西京ヨリ越前國敦賀マテノ鐵道布設ノ議及ヒ同  
上ヨリ中仙道通り尾張國名古屋マテノ鐵路建築ノ議  
アルヲ以テ地理測量ニ從事センカ為ノ内外國人ヲ各  
所へ派遣セシムルモノ數次今之ヲ撮録シテ左ニ其ノ  
事由及ヒ支給金負等ノ概畧ヲ述シニ英人「ニュー・コン  
氏技術挂中山正功服部之正會計挂柏木精一ノ三名ヲ  
隨ヒ米原加納ヨリ木曾川ヲ越ヒ中島琵琶島名古屋熱  
田山崎作良等ノ地ニ至ル同國人「ホルサム」通辨木村  
懋會計挂平松権中屬ヲ隨ヒ米原ヨリ岳井赤坂ヲ經テ  
笠寺宮名古屋及道德新田海岸ニ及テ同「セルビント」ハ  
雜務掛西村信將技術掛古賀政次郎ノ率ヒ西京深草山

科ヨリ大津瀬田ニ暨ル全「フエケ」ポッターレノ西氏技  
術挂鈴木芳吉島崎周會計掛神永権少屬古山清等ヲ從  
ヒ八幡長濱間美赤坂鶴沼間ニ至ル全「ハーデー」氏技術  
長谷川謹介會計掛北川喜辰ヲ率ヒ米原醒井今須山中  
ヨリ関原加納鶴沼間ニ至ル全「グラインク」氏技術中村  
武章會計掛濱島正邦ヲ從ヒ米原  
醒井ヨリ関原岳井辺ニ至ル同「キ  
ントル」デーノ西氏技術川西俊英  
島田延武竹井喜平治山口武良廣  
務掛山川吾作ノ五名ヲ率ヒ加納  
笠松ヨリ木曾川ヲ越ヒ子生和六  
角堂ヨリ枇杷島熱田等ニ至ル以  
上ノ事業八年七月ヨリ全十二月

測量入費畧表

官負以下派費	三三九二〇〇
外國人諸費	一三八、七七
測量賃	一八八〇、七五
土質検査賃	二〇一、九六〇
全受負	七、七〇
器械代及修繕	二九一、〇九三
運賃	五、二六五、五
諸費	四八八、〇四
總計	七、三九、〇四三

ニ至リ竣工ス此内外國人ニ給與スル旅費及工賃器械  
修繕ノ代價等之ヲ畧表ニ條載シテ以下端ニ掲ク

修理雜功

本週年間西京大阪神戸地方線路建築所用ニ係ル内外國  
人屋舎倉庫物置等其他ノ修繕  
雜功ニ係ルモノ數百項且工業  
ノ緩急ニヨリ甲地ノ擔任者ヲ  
シテ乙丙ノ地ニ移轉セシムル  
カ故ニ其移居ノ地ニ就テ官舎  
設置セサルヲ得ス此件ノ瑣事多端ナルヲ以テ部分類  
集シテ下款ニ之ヲ列記シ以テ其梗概ヲ示スノミ

各所修繕概表

地名	工費	諸材
神戸内務局	一六八八	五〇〇〇
京阪間	一五〇〇	一〇〇〇
全所官舎等	一〇〇〇	一〇〇〇
坂神間運輸局	一〇〇〇	一〇〇〇
合計	五二〇〇	三〇〇〇

新橋横濱間運輸ノ景況

明治八年七月新橋横濱間鐵道貨物運送補則條中第廿  
六條馬車貨車ノ賃金ヲ改定シ同第廿八條ノ牛馬豚羊  
輸送ヲ肇ト同月十日ヨリ之ヲ施行ス全十月七日午前  
七時横濱發車進行中高島町ニ於テ機関シリシドル  
ニ些シク損傷ヲ生シ直ニ修繕ヲ加ヘ運轉スト雖モ新  
橋着車ノ時限三十分ヲ遲延ス此故ニ八時十五分發車  
ヲ駐メ九時三十分發車ヨリ例則ノ如ク輸送ス十一月  
五日午后五時新橋發車川崎駅ニ至リ機関ハイフニ損  
傷ヲ生スルヲ以テ同六時十五分ノ發車ノ機関車貳輛  
ヲ聯合シ前ノ停車ヲ輸送ス十一月廿四日芝田町二丁  
目ニ番地坪數百廿六坪餘代金三百四拾四圓四拾貳錢  
貳厘ヲ以テ購求シ新橋品川間副線停車場ノ用ニ充ツ



九年一月横濱レインクロート商會ヨリ麵包ヲ輸送スルヲ乞フガ故其十五日通常小荷物賃金ノ三分二ヲ領収シテ之ヲ運送スルヲ許ス此月三日午後八時四十五分横濱發車機關方英人ベインズ氏ノ不注意ニ因リ川崎駅駐止ノ位置ヲ超過シ新橋ヨリ下リ列車ヲ避ケンカ為メニ線條ヲ外シ暫時運輸スルヲ不得此故ニ十時及ヒ十一時十五分ノ發車ヲ罷メ翌日午前一時ニ至リ漸ク本線ニ回復ス後ナ同氏ノ此ノ失職ヲ罰シテ金貳拾五圓ヲ課ス同廿三日鮮魚商ノ情願ヲ允シ此運搬ニ限り斤量ヲ問ハス志駄ノ賃金四拾五錢ノ割合ヲ以テ神奈川新橋間ノ輸送ヲ許ス同十七日大雪錢軌ヲ没シ且烈風ノルヲ以テ危險ヲ恐レ兩極二次ノ發車ヲ止ム二月廿八日大森ステーションノ置ク六月二日

午前二時三十分英公使ノ依頼ヲ受ケ臨時横濱へ列車ヲ出發ス以上本週年間瀛車運輸ノ概畧ニシテ此間乗客貨物輸送ノ負數及賃銀ノ總額ヲ左ニ表記ス之ヲ前週年間ノ収入ニ比較スルニ金三萬八千八百貳圓六拾六錢四厘ヲ減ス是レ本年度運輸事業ノ大畧ナリ

年	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	合計
乗客ノ數	一四、四四二	一六、一七五	一三、九七三	一五、八八二	一七、五九七	一七、五九七	二六、〇七二	二二、三五二	一四、〇九三	一五、七八三	一六、九四七	一五、七六六	一六、六六八
貨物ノ數	一三、七三三	一三、八六四	一七、一五七	一七、五九七	一四、八三二	一四、九四三	一四、一三三	一三、〇六八	一四、一八八	一三、五五二	一三、五七二	一三、二四三	一三、六六八
乗客ノ賃	三、三六〇	三、八七五	三、二八八	三、六八六	三、九七九	三、七〇〇	五、〇七五	四、三二七	二、八八八	三、〇六一	三、二九一	三、一三二	三、七〇九
貨物ノ賃	三、八五九	三、九八七	五、〇九八	五、二八二	四、四八八	四、五八二	四、三二七	三、九八八	四、一八八	三、九八八	三、八八八	三、七三三	三、七三三
費用金	一〇、〇六二	一〇、七五二	一〇、八七五	一〇、八七五	一〇、七五二	一〇、七五二	一〇、七五二	一〇、七五二	一〇、七五二	一〇、七五二	一〇、七五二	一〇、七五二	一〇、七五二
差引殘金	二、六六八	二、九八七	二、四一三	二、八〇九	三、四九一	三、〇〇〇	三、三〇〇	二、三三九	一、二〇〇	一、七六二	一、五〇四	一、三九九	一、五九九

出張事由























全	石炭置屋	八間半	九六三九〇	一六五四	七八六〇	九四七四	四月廿五日
總計			三二二八七三三	一三八〇五三	二六七二四五	四二五四九四	裁増
							一六六六
							七六六〇五
							一〇二五三五四
							三九四九全裁

修築畧表

地名	物名	長短	目途	工賃	運賃	材石代	總計	減増	起月日	役名
神戸製作	備用品			四九五			四九五		八月	吉河保義
倉庫	用水	九		八七五〇		一三二	六六二		全	全
濱手棧橋		四百五十八尺	六〇〇〇〇	九八八五八		九七五	三二四		九月	全
東車前庭				一三八五〇	三二七八	二九五	一八二七三		六月八日	
大坂倉庫		六十一尺	二四六〇〇	三七二四四	九八七	六三三三七	一〇七四九八		十月廿六日	トリスグレイ
神戶置屋		二十尺		二七六〇		二六三	五四三二		十一月廿三日	吉川巳之助
全構内	棧橋			一三〇八八		八四九八	二五七九		二月	松岡宗忠
京坂間		九九尺		九〇〇〇					三月	
出張所									四月	
芥川堤上	外國人役	一二間半	一三五〇						七月	
總計			六三四九七〇	一七六六六四	三三三五	九四七四九七	二〇二四四六			

外國購買品

鐵道運輸ノ業タルヤ既ニ論スルカ如ク我邦未曾有ノ鴻業ナルカ故暫ク歐米人ノ技手ヲ徵傭シテ之カ操作ノ便利ヲ得ルト雖トモ此業ニ属スル諸般ノ需用品モ亦之ヲ海外ニ仰カサルヲ得ス今其大畧ヲ述レハ錢條ヲ始シトシ乗客車機関車用ノ諸材錢具硝子版等ヨリ瑣細ノ物品ニ至ルマテ我邦ニ産出セサルモノハ都テ之ヲ彼ノ國ノ商會ニ倚頼シテ之ヲ購入シ常ニ庫中ニ貯蓄シテ其用ニ充サルヲ得ス加之京神間線路ノ脩長スルニ際シ其需求モ亦増加スルヲ以テ漸次物品ノ増殖スルモ勢ヒ止ムヲ得サル者ト謂ヘシ本周年間購求スル處ノ諸物品ヲ列載シテ畧表ヲ製シ其代價負數斤量

等ノ大畧ヲ示ス事左ノ如シ

附言

表中物品ノ個數量目等夥多ノ中ニハ大數ヨリ小數奇零ノ微細ナルモノアリ今之ヲ明記セントスレハ寸分ノ罫畫中ニ填載スル能ハス又物品ノ斤量ニ於テモ右ノ如ク大數ハ噸ヨリシテ磅ノ下ノ小量ニ至ルマテ一々記載スルヲ得ス爰ヨ以テ其斤量ノ如キハ噸位ヲ改メ幾千万磅トシ其奇零ナキハ直チニ噸或ハポンドトシ等ノマ、之ヲ掲載ス此餘用紙類等モ大小括ヨリ一ニ枚ノ端數マテモ詳記セントスレモ隙地ナキヲ以テ止ヲ得ス奇零ノ極々テ細微アルハ之ヲ省ケリ雖然其代價ノ如キハ一モ之ヲ加除セス逐件詳細ニ之ヲ列載ス

外國購買品一覽表

品種	個數量	代價	品種	個數量	代價
鋼 鐵	一八六	一〇四三	粘 土	九三三	三八二
屋 根 用 釘	四八卷	五九三	錢 鎖 並 釘	六八磅	九七四
磁 石	七個	九七九	揚 礎 用	一組	二〇九七三
鑼 鑼	二個	七四九	錢 板	六六磅	四四八
鑼 鑼	一把	二二四	尺 板	一個	六五〇
色 物 但 金 物 用	二二罐	七〇三	青 酸	一担	一五〇
フランクジヤリ	二吋	一五六	青 酸	一担	七五
繪 具 類	六四六磅	一四〇三	器 械 ノ 栓 小 箱 用	一個	一〇〇
ハチントドラキ	四吋	二七五	旗 釘	六磅	二五〇
フースキツクベースト	一吋	一八四	硝 子 板	二コヤト	七〇
小井ーリニクアツ	一五吋	二九三	亞 鉛 製 板	七六三枚	八四九
白色 漆	二噸半	四九三	亞 鉛 製 板	四個	五〇〇
輕 石 類	七吋	四三三	ス ト ー フ	一個	三三〇
バニシ上油	八箱	一〇九三	灰 墨	七磅	一七五
金 箔	一五	七九四	文 房 具	一個	七〇五
スパーニイシム	三吋	五五	粘 土	四九八磅	九三三
綠色繪具 即 用	二吋	二四四	粘 土	五七磅	二一八
カストル油	一五〇箱	二七三	鉛 板	八八磅	一三〇
文 房 具 類		七四六	卷 尺	一個	六五〇
鉄板並ニ鉄棒	四七六磅	二六八	鉄 水	三個	八〇〇
金 箔	五箱	四三〇	青 酸	一個	七五









下條ニ畧表ニ附シテ以テ一日瞭然ナラシム而シテ此災害ヲ被ルヤ畢竟各自ノ不注意ニ出ルヲ以テ毎度後來ヲ警戒スト雖モ追日工業ノ皇張スルニ随ヒ傭役人夫ノ數モ亦増加スルカ故總ハ漸次罹災者ノ減却スル素ヨリ論ヲ俟サルナリ

傭外國人黜陟

傷	姓名	被傷月日	支給金額
股部有背挫傷	野村三浦次三郎	七月七日	二、〇〇〇
手	音吉	七月廿一日	二、五〇〇
頭顱腰股死	庄吉	七月廿一日	四、五〇〇
創底救死	龜太郎	七月廿九日	二、五〇〇
創底救死	岩吉	八月三日	二、五〇〇
頭上挫傷	芳茂	八月十二日	二、〇〇〇
足指挫傷	嘉兵衛	八月十二日	一、〇〇〇
手三指挫傷	増次郎	八月十八日	七、〇〇〇
左足挫傷	辰五郎	八月十八日	七、〇〇〇
左足挫傷	政次郎	八月十八日	二、五〇〇
右足小指挫傷	七平	八月十八日	二、五〇〇
左肩胛骨挫傷	房太郎	八月十八日	三、〇〇〇
左足無名指挫傷	清吉	八月十八日	二、〇〇〇
左足髌骨打傷	卯之助	八月十八日	二、〇〇〇
左足背打傷	與三郎	八月十八日	二、〇〇〇
右足打傷	岩松	八月十八日	二、〇〇〇
左足打傷	定之助	八月十八日	二、〇〇〇
右足打傷	國藏	八月十八日	六、〇〇〇
右足打傷	傳助	八月十八日	三、〇〇〇
左足打傷	留次郎	八月十八日	三、〇〇〇
合計	人員		一、一八、〇〇〇

本寮ノ事業タルヤ前既ニ陳述スルカ如ク東洋中未曾有ノ鴻業ヲ創メ未タ數年ナラサルニ遽カニ他ノ精巧ナル機関ヲ徵リ直チニ之ヲ未開ノ地ニ施行スルカ故百端ノ諸技暫ク之ヲ外人ノ手ニ借ラサルヲ得ス爰ヲ以テ歐洲人ヲ多ク傭役スル他ノ寮司ヨリ超越スル所以テ然リ而シテ人負多ケレハ亦随テ黜陟モ頻繁ナリ今本週年間傭使スル所ノ外國人各自ノ勤怠ニヨリ後來ヲ奨励セシカ為メ或ハ給料ヲ増減シ或ハ月給ヲ日給ニ改正スルモノ及ヒ其職ニ堪ヘサルヲ以テ放免スル者等別表ニ條列シテ左ニ記載ス

附言

表中元給ヲ記載セサルハ總テ新ニ傭使スル者ニ係ル其他辭職放免病死等モ給額ヲ記セス唯







職名	姓	日	種別	職名	姓	日	種別
繪師	エツケ、ハートマル	一五〇	全	繪師	ヘンリー、コリス	二九六	全
塗師頭取	アンド、リエース	四	全	塗師頭取	チャールズ、スリークス	二九六	全
全	ジョー、レイニス	四	全	全	トーマス、ビンガム	二九六	全
石工頭取	カビット、ランドルス	四二〇	全	石工頭取	エドワード、フォックス	四	全
全	トーマス、サウーケル	四二〇	全	全	ウィリアム、エドワーズ	四	全
木工頭取	ビムス、イリク、ポル	四二〇	全	木工頭取	セムス、ニエウエル	四八〇	全
全	ジョン、ゴフ	四二〇	全	全	ジョージ、クラッペ	四八〇	全
石工	リー、ホルスレー	四二〇	全	石工	ビー、カーロル	三九〇	全
全	ジョン、シースミス	四二〇	全	全	ヘンリー、ウロス	四九〇	全
大工	ジョルシ、ワイト	三八〇	全	大工	フレデリック、ホルスト	四	全
全	ヘンリー、ハフトン	八二〇	全	全	ウィット、バルック	七五	全
荷車頭取兼 組立方	ジョン、クレー	五	全	荷車頭取兼 組立方	ビロ、レドレル	三九〇	全
全	ジョル、バクソフ、アス	四	全	全	エン、シー、ラスモエン	三	全
全	エドワード、マートン	四	全	全	トーマス、コンラッド	三一〇	全
全	ヘルベルト、フリスト	四	全	全	エッチ、ロベール	四	全
全	ヒュー、ビー、クエップル	四	全	全	ブール、ジョー	四	全
全	リチャード、イ、グール	四	全	全	マイケル、フ、ア、ドール	二二五	全
全	ジョル、ジ、エ、ル、リス	四	全	全			全
合計		一〇四		合計		二〇二〇九	

後給料ノ総計スルニ當テ日給ノ分ハ六月ノ日数三十日ヨリ算シ他ノ月給ノモノト權衡ヲ均ス

六郷鉄橋架設ノ景況

八年五月廿四日六郷鉄橋架設ノ議ヲ決シ六月ニ至リ地所買入測量ニ着手全八月土工ヲ創メ工業場修築ノ尖上流ノ村民水害ノ苦情ヲ訴フルヲ以テ更ニ九年二月ニ至リ架渡模様替ニ費用ノ金額ヲ増加シ北部ノ新堤ヲ築造シ外國人居館建設其他百般ノ工事漸々緒ニ就キ全四月三十日ヨリ橋臺組立ニ從事ス此工業架橋ノ課程ハ初步ニシテ土工ヲ八分トス此役ニ服スル英人ヒルピントン全シヤン此役ヲ替スル中属大竹宗保有吉公千権中属若園吉孝一等少手小川勝五郎二等少手大島盈株十三等出仕松本知翁一等見習中級上原賢吉十四等出仕菊池清熙ノ八名トス此目途金拾九万

三千七百九拾四圓九拾貳錢事業宏大ナルヲ以テ數閱  
月ニ非レハ竣工スル能ハス此故ニ逐次課程ノ裁分ニ  
至ルヲ報告シ以テ他日卒業ヲ告ルノ参照ニ供セント  
ス因テ創業以來ノ概畧ヲ左ニ記載ス  
七年十一月七日ヨリ六郷川底ノ地味ヲ試檢ス是レ  
錢橋ヲ架設セント欲スルノ濫觴ナリ  
八年二月廿五日兩岸新線路ノ位置ヲ測量スルニ當  
リ全所梨樹ノ障碍ナルヲ東京府へ商議シ植替ノ入  
費金ヲ下附シ三月十八日梨園ヲ他ニ轉移ス  
同年五月二十四日架橋目途ヲ定メ前書ノ員數トス  
六郷近傍線路改築ノ為メ南方ノコルベルトヲ廢シ  
更ニ錢路ヲ避ケ患水路ヲ新設センカ為メ縣官へ達  
シ右吐出水門永年ノ修繕ハ民費ニ附ス此水路敷地

坪數七百八拾九坪余代金百貳拾九圓貳拾壹錢七厘  
ヲ以テ之ヲ購求ス  
六郷川南岸ノ線路彎曲ヲ直線ニ改築センカ為メ五  
百七拾五坪ヲ金三拾八圓六拾錢五厘ニ購入ス  
全所北岸新線路敷地六千貳百九拾三坪余東京府ヨ  
リ受取ル  
新線路築造ノ土工場需用ノ為メ河沿ヒ不毛ノ地所  
三千八百八拾七坪余全上ヨリ受取ル  
二月十五日錢本橋長六百尺同陸橋長千五拾尺ニ改  
築ノ議ヲ決シ費用金九万八千貳百九拾圓九拾錢ヲ  
増加ス  
擔任外國人官舎用地千百坪并ニ工場用地五百四  
坪四月十五日買入ル此代價金三百廿五圓八拾九錢

此建築仕樣，概畧。左二揭。

錢橋本橋長六百尺幅廿四尺五寸高廿尺

全陸橋長千五拾七尺幅廿尺高二十尺

南岸新堤長五百三十六尺馬踏廿五尺鋪幅七十尺

五寸高平均十三尺

北岸新堤長千貳百三拾四尺馬踏廿五尺鋪幅七拾

尺五寸高平均十三尺

物置桁行四拾貳尺梁間三拾六尺軒高拾貳尺壹棟

鍛冶小屋桁行七拾貳尺梁間廿七尺軒高拾尺壹棟

大工小屋桁行九拾尺梁間拾八尺軒高九尺壹棟

人足小屋桁行四拾八尺梁間拾八尺軒高九尺壹棟

詰所桁行四拾八尺梁間拾八尺軒間壹丈壹棟

建築師外國人官舍桁行三拾壹尺五寸梁間三拾六尺貳寸五分軒高拾貳尺，西洋作壹棟

工夫外國人官舍桁行三拾七尺貳寸五分梁間三拾

八尺貳寸五分軒高拾貳尺，西洋作壹棟

六鄉南岸線路茅拾八号溝改設長三拾尺幅拾六尺

高七尺

全茅拾九号溝要水路新規附替長百四拾三間半幅

拾八尺深平均七尺貳寸